

ラグビー現場での救護活動を通じて～「命を守る現場力」を磨く

田原 亜沙美 (社会医療法人 同仁会 周南記念病院 整形外科)

山口県でスポーツナースとして活動している田原です。ご縁をいただき、ラグビーの救護現場に関わらせていただいています。2025年5月3-4日に大学ラグビーの試合で救護を担当しました。ラグビーは競技人数が多く、密集状態が長く続くため、選手全体を注視する姿勢が欠かせません。コンタクトスポーツならではの負傷対応が多く、現場対応力が問われる場面が多数ありました。特に、倒れた選手には常に脳震盪の可能性を念頭に置き、5秒以上動きがない場合には即座に対応出来るような構えが必要でした。また、一度競技復帰した選手についても、ふらつきや不自然な動きがないか、試合の流れの中で継続的な観察が求められました。さらに、現場では明らかな物品の不足があり、「何を優先して準備するべきか」「限られた資源の中でどんな工夫ができるか」という視点での対応が求められる、大きな気づきとなりました。

その後、社会人トップリーグ「リーグワン」の救護活動にも参加する機会を頂きました。メディカルチームの流れを間近で見ることで、事前の入念な準備、チーム間コミュニケーション、緻密なチーム連携と判断スピードの重要性を実感することができました。また、この場でスポーツナースという存在の価値や役割についても、メディカルスタッフや運営の方々にお伝えする機会を頂きました。

現在、知識と実践力を持った看護師たちがスポーツ現場での活動を強く望んでいます。しかし、意欲があるナースが多い一方で、活動の場がまだまだ限られているのが現状です。だからこそ、こうした場でスポーツナースの存在や役割、必要性を知っていただく事が大切だと感じています。

私の今後の抱負としては、さまざまなスポーツ現場での経験を積み、実践力を高めながら、スポーツナースの活躍の場を広げる一助となれるよう努めていきたいです。そして、スポーツ現場をより安全に、より強くしていくための力になりたいと思っています。

現場から得た気づきと課題を、今後の看護・救護活動へ還元してまいります。みなさんの現場での気づきや学びも、ぜひシェアしてください。それぞれの経験が、次の現場を強くします。



メディカルスタッフとともに



マッチドクター指導による担架搬送訓練